第 27 回 あすなろ夢建築
大阪府公共建築設計コンクール
入選作品集

テーマ：多世代が集い逢う場
大阪府営堺宮園住宅集会所

主 催
大阪府　公益社団法人 大阪府建築士会　大阪府住宅供給公社

後援
大阪府教育庁　一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協賛
一般社団法人 日本建築協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部
一般財団法人 日本建築総合試験所
公益社団法人 日本建築積算協会関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
一般財団法人 大阪建築防災センター
一般社団法人 公共建築協会

「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課
〒559－8555　大阪市住之江区南港北１－14－16
TEL：06－6941－0351（代表）　平成30年３月発行

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ

多世代が集い逢う場

主な設計条件

〔課　　題〕大阪府営堺宮園住宅集会所
〔所　在　地〕堺市中区宮園町
〔計画地面積〕約 1,680 ㎡
（建物計画地約 600 ㎡＋緑地計画地約 1,080 ㎡）
〔床　面　積〕300 ㎡以下
〔構造・規模〕鉄筋コンクリート造　平屋建て（地下なし）

作品受付期間

平成 30 年 1 月 5 日（金）　～　平成 30 年 1 月 12 日（金）

応募状況

[応 募 校 数] 18 校
[応募作品数] 340 点 (うち　第 1 部 163 点、第 2 部 177 点)
[応 募 者 数] 368 人 (うち　第 1 部 166 人、第 2 部 202 人)

第 1 部
大阪市立工芸高等学校
大阪府立今宮工科高等学校
堺市立堺高等学校
大阪市立都島工業高等学校
大阪府立西野田工科高等学校
堺市立堺高等学校（定時制）

第 2 部
大阪市立デザイン教育研究所
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
大阪総合デザイン専門学校
大阪府立大学工業高等専門学校
修成建設専門学校
中央工学校 OSAKA
大阪建設専門学校
大阪工業技術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門校
近畿職業能力開発大学校
創造社デザイン専門学校
日本理工情報専門学校

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は 3 名以下のグループでの応募とした。

募集区分

[第 1 部] 工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
[第 2 部] 短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

グランプリ 1 点、優秀作品賞 3 点、佳作 3 点、奨励賞 3 点の計 10 点を入選作品として選出。ただし、第 1 部と第 2 部からそれぞれ 2 点以上の入選作品を選出することとした。

表彰式・プレゼンテーション

日時：平成 30 年 3 月 28 日（水）
会場：大阪府公館　大サロン

作品展示

場所及び期間
①大阪府咲洲庁舎 (さきしまコスモタワー）2 階エントラスホール
平成 30 年 2 月 22 日（木）～平成 30 年 3 月 6 日（火）
②大阪府本館　1 階ロビー
平成 30 年 3 月 6 日（火）～平成 30 年 3 月 16 日（金）
③ハグミュージアム / 大阪ガス　3 階（予定）
平成 30 年 3 月 16 日（金）～平成 30 年 3 月 27 日（火）

審査委員

[審査委員長]
福原　和則
（大阪工業大学
ロボティクス＆デザイン工学部
空間デザイン学科教授）

[審査委員]
下村　泰彦
（大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授）

岩田　章吾
（武庫川女子大学短期大学部生活造形学科教授）

堀部　直子
（株式会社　Horibe Associates）

森下　嘉弘
（大阪府住宅まちづくり部公共建築室住宅設計課長）

松田　浩三
（大阪府住宅まちづくり部公共建築室長）

総評

本年度も記録的な応募数であった昨年とほぼ同数となる応募をいただきました。高校生の部である第 1 部と専修生等の部である第 2 部のそれぞれから多数の応募があったことも喜ばしい限りです。本コンクールの価値が広く知られた証であると思います。毎回、敷地内の配置計画における外構部分の重要性が審査会において話題になるのですが、今回は隣接する緑地計画地の計画を要項の中で明確に求めたところに大きな特徴があります。入選した作品は建築と外構双方に優れた提案内容を含むものです。当コンクールは、実施を前提としていますので、コストや管理の面の優劣が審査に大きく影響します。しかしその反面、審査員の先生方は、若い発想による伸びしろのある案を発掘したいと思っています。タイトルのとおり夢のある案を探しています。難しいコンペですが、皆さんの一層の頑張りに期待します。最後になりますが、本紙面を拝借して、入選された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

原田　宗太朗　作品（グランプリ）

敷地形状に合わせて建築を配置することで広場と建築をスムーズにつないでいる。平面の中央に廊下を配置し両端を外部に開くことで、明快な動線とシンプルで使いやすい共用空間を構築した。居室ごとに分節されたボリュームはヒューマンスケールで親しみやすい外観を形づくっている。外構計画も適切でバランスの取れた案として評価され、グランプリに決定した。

チェリック ディレック ネシェ 作品（優秀作品賞）

中庭を持つ廊下を中心に外部とのつながりを十分に確保した居室を配置して、バランスの良い平面にまとめ上げている。玄関から中庭を見せる視線のコントロールやコンパクトな動線も秀逸で実践的なプランである。外構も丁寧に計画していて好感が持てるが、幾何学的なパターンにしては実際の面積が狭い点や建築とのつながりが弱い点などわずかな点が結果を分けた。

村上　裕哉　作品（佳作（ランドスケープ賞））

これほど積極的に外構をデザインした案は他にはない。水面に面した大ホールや地形の変化に富んだ外構は見る人に期待感を抱かせる。しかし、団地内の集会所としての機能を考慮するといささか過剰で運営、管理の点においても多くの課題を含んでいる。以上の評価から佳作（ランドスケープ賞）に選定された。

松山　健　作品（佳作）

洋室と大ホールに分節して高さを変え、屋上に階段で誘導して接続するアイデアやプランの中央まで入り込む路地状の中庭はユニークな独自性をアピールした。光が放射状の拡散する様を表わした外構デザインも面白い。しかしその一方でウッドデッキと洋室側のテラスのつながりや放射状のベンチの外側の設えなどが不十分であることが惜しまれる。

西谷　匠平　作品（奨励賞）

給水塔をシンボルとする水のネットワーク計画は夢があり、応援したくなる案である。屋根付き円形ベンチを中心とする庭と建築の関係も良好だ。居室の上部をすべて水面にする案は勿論課題を含むものであるが元気の良さが評価された。

細川　悠人　作品（優秀作品賞）

よく整理された平面計画と使いやすく環境の良い居室に加えて、中央にテラスを備えることで、独自の空間を提案したことが高く評価できる。勾配屋根による親しみやすい外観や懇切丁寧に計画された外構も大きな魅力として注目された。その一方で、木造のような外観表現や外部との接続などの点で評価が分かれ、優秀作品賞に留まった。

久保　和誠　作品（優秀作品賞）

建築と外構が同じ軸の上で一体的に設計されている点が素晴らしい。共用部分である施設中央の廊下がそのままランドスケープの軸となり動線も連続している。大ホールと洋室のつながりや中庭などの提案も好ましい。他の優秀作品とともに最後までグランプリを争ったが、廊下が少し狭小である点、入り口が 3 か所あり、廊下が少し閉鎖的である点、事務室の形状がいびつであることなど、わずかな差で選から漏れた。

戸田　咲希　作品（佳作）

タイトル「ひとつになる集会所」の名のとおり、ウッドデッキを含む中央の街路状の空地と広場が建築と外構を一つにまとめている点が評価された。ウッドデッキは洋室と大ホールもつないでおり、コミュニティの中心として多様な使い方がなされることが期待できる。各室の形状や広さなど改良の余地をまだまだ含むが、魅力的な内容を提示した案として評価された。

小川　鈴音　作品（奨励賞）

コンパクトで無駄がないプランである。敷地形状に沿った無理のない建物配置が遊具エリアとの自然なつながりを生んでいる。実施を前提としたコンペであるがゆえにその実用性が評価された。その一方で廊下廻りの各部のおさまりなどに課題を含む。

長岡　修平　作品（奨励賞）

よく検討された整然とした室配置と居室をつなぐ形で連続するデッキが評価された。しかし、それ以外の特徴に乏しく、いささか狭小な廊下や玄関、採光が取れていない和室などに課題を含んでいる。庭ももう一工夫欲しかった。

グランプリ

グランプリ　原田　宗太朗
修成建設専門学校　１年
緑と共に人が集う集会所

集会所は地域の中央に位置するため多方向からのアクセスを考慮し、南と西方向からは緑地の遊歩道を、東方向からは歩道または集会所南側を通って集会所にアプローチできるよう計画しました。通学路になるであろう緑地西側の遊歩道にはハナミズキの並木とキンモクセイやジンチョウゲ、ツバキを植えて季節を感じられるよう工夫しています。落葉と常緑の高木も計画し、緑地内に木陰を作りました。集会場の大ホールとふれあいキッチンからテラス（ウッドデッキ）を通して、緑地が望めるよう計画しました。緑地の中央部にはシンボルツリーとしてシダレザクラを計画し、地域に親しまれるよう考えました。ウッドデッキにはパーゴラを設け、フジが日よけとなりながら、花も楽しめるスペースにしています。また集会場へ南側からの遊歩道沿いに、ふれあいガーデンを計画し、人々が植物を通して交流できるようにしました。ウッドデッキ西側にもプランタースペースとして提供できるよう計画しています。
集会場の計画は、各部屋の配置が解りやすい単純な中廊下式の平面計画にしました。暗くなりがちな中廊下には、熱線反射ガラスで採光屋根を計画し明るくしています。洋室は利用しやすい集会場中央でかつ広場と道路に面した位置に計画しました。和室は集会所敷地北東部に計画し、ぬれ縁を介して箱庭を望めるようにし、落ち着いた空間をイメージしています。和室からの縁側から望む和風の庭の一角には、既設集会所前のもみじを移植する計画にしています。

優秀作品賞

優秀作品賞　細川　悠人
大阪市立工芸高等学校　２年
With Meal「食住」

今回は多世代共通の「食」というものに着目し、「食」でつながる集会所を設計しました。キッチンでは料理教室が開かれ、集会所を利用している人に料理が振舞われます。そして建物の中心にキッチンと折りたたみ扉でつながるテラスを設けることで各部屋からのアプローチを短くし、「食」を共有しやすくすることでコミュニティの向上を促進します。
緑地計画地には菜園をつくりその周辺に果樹を植えることで、植林ならぬ「食林」を作り出します。それを集会所を利用する人々で管理・育成することで、収穫の時期に育てた野菜などを用いてテラスでパーティを催すことができるので、人々の一体感が高まります。また、菜園を利用して子ども達が観察日記をつけたり、果樹に集まった鳥を愛でる「野鳥の会」が結成するなど様々な方向性から人々が集まるので、まちとの調和が成され、現代社会にとって理想的なコミュニティの輪を深く広げていけるようになると思います。

優秀作品賞　チェリック　ディレック　ネシェ
大阪建設専門学校　２年
TREE is LIFE

木は人生です。木は私達の生活の中で重要な場所です。私達は子供たちに植樹を促すべきです。私は自然を教え、植物を植える目的でこの建物を設計しました。四つのステップで両親と高齢者が子供たちに植樹を教えます。これによって子供たちは楽しく木を育てることの重要性を学ぶでしょう。
この集会所と広場に対して、オープン関係を持っています。それは大人と子供が植樹を通してコミュニケーションすると同様に木と建築とコミュニケーションをする関係にあり、人と木と建築が有機的に接続することができる場所になると思います。
大ホールの天井を高くし大きな窓を作り、開放的な空間にしました。建物の中心に中庭を作ることで和室と廊下が良い環境になるように配慮しました。大ホール、キッチン、和室の外部にテラスを作ることで一体的に利用出来るように考えました。

優秀作品賞　久保　和誠
大阪建設専門学校　２年
溢れる宮園集会所

現代の集会所では、利用用途が限られている傾向がある。その問題を見つめなおす為、この集会所を利用する人々がそれぞれ違った使い方ができるよう、敷地を細かくグリット分けをした。
そこにマテリアルを敷いて、数年毎に更新できるようにした事で、アイデアの減る事のない緑地と、地域に寄り添う建物ができるのではないかと考え計画した。この集会所がいつまでも長く人々で溢れる事を期待している。

佳作（ランドスケープ賞）　村上 裕哉
大阪市立工芸高等学校　３年
水鏡に写る四季と人

四季によって表情を変え、水面に映し出される建物。その美しい自然を眺めながら人々と集会を開く。
緑地計画では建物へ行く道のりを自然と一体になり眺めながら歩ける空間へデザインした。
この計画地で和み人と繋がりゆく。

佳作　戸田　咲希
大阪市立工芸高等学校　２年
ひとつになる集会所

この集会所は地域の住人とその周辺の人々が親しくなれる場をコンセプトに設計しました。まず集会所を設計する上で私が一番大事にした点は、「複数の空間を一体化できる」という点です。集会所は洋室を含む北側の建物と大ホールを含む南側の建物、それを結ぶ廊下とウッドデッキによって構成されています。ウッドデッキに面する廊下や部屋の壁には取り外し可能な引き違い戸を配置することによって開放感や出入りの自由さを実現しました。さらに戸を取り外すことでもっと多くの人々と一つの空間を共有することができます。一体化できる空間は集会所内だけでなく、緑地計画地との一体化も可能です。緑地計画地で催されるイベントがある際にはウッドデッキ周辺の空間をカフェや体験スペース、室内展示に利用することができます。緑地計画地に開いた形状のため、イベントの際でも閉塞感や孤立感を生みません。なのでイベントを開催したい人に場所を貸し、収入を得るのも良いと思います。もう一つ大事にした点は、環境に配慮する点です。ウッドデッキを建物の中心に配置し、大きなガラス戸を使うことで多くの部屋に日光を届け、昼ならほとんど電気を使わずに明るくなるようにしました。さらに屋根の高さや角度を調節することで夏は直射日光が部屋に入りにくく、冬は暖かな光が部屋に入るようにしました。

佳作　松山　健
修成建設専門学校　１年
Lumiere

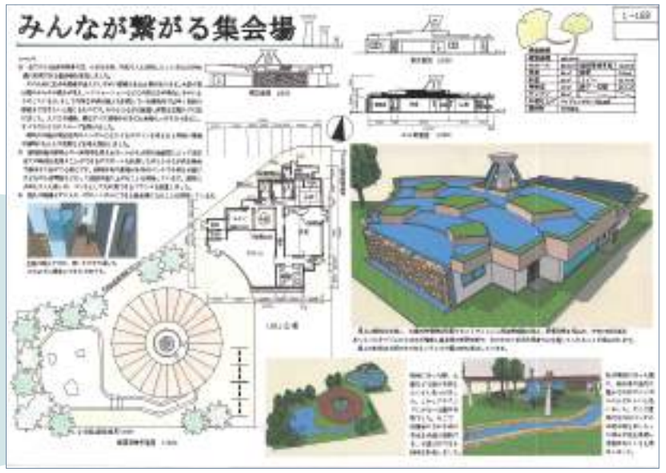
光りが水平に透過する大ホールと廊下を外部空間ではさみ連続的な空間層と開放性をつくる。一部に曲面を使うことでやわらかいイメージと光の屈折が混在する。
緑地においても開放てきにしだれもが容易に集える場で活動を限定しないつくりとした。
中庭から雲透のように放射状にひろがる光をあらわした白い直方体のベンチを緑地に配置しやすらぎの場や憩いの場、自由な活動の場、つまりふれあいリビングの延長として建物と一体にした。
また人々が共存するよう空間に焦点を当て開放的な広がりが人の心にまで届くような集会所を目指した。

奨励賞　小川　鈴音
大阪市立工芸高等学校　２年
みんなの集会所

集会所を長く沢山の人に利用されるように建物の形はシンプルに仕上げました。また１本のろう下を中心とし、若い人からお年寄りの誰でも簡単にかつ安全に利用できる導線計画にしました。そのため、玄関に入るとそれぞれの部屋が見渡せるようになっています。また大ホールと洋室の間にも可動式の壁を設置しました。大ホールをより広く利用したい時に洋室も大ホールの１部とすることが出来ます。大ホールの窓を多くすることで風や光を十分に取り入れて省エネルギー化へとつなげるだけでなく、広場へ直接行ったり、広場で遊ぶ人たちを眺めることができます。外観はシンプルなデザインにすることで周りの住宅や広場の景色に合いやすく、コストを最小減におさえることができます。緑地広場の方は、集会所の方から見て、手前に、遊具エリア、芝生エリアがあり、奥にシンボルツリーがあるため全体を見わたしやすく、子供を安心して遊ばせれます。（一部抜粋）

奨励賞　西谷　匠平
大阪市立都島工業高等学校　３年
みんなが繋がる集会所

全ての人が快適に利用できる集会場を目指しました。そのためにまず利用者が出入りしやすい環境である必要があります。大型の窓は屋外から中の様子が見え、レクリエーションなどに内気な方が参加しやすいようにしています。入り口や通路、扉は全て車椅子の方にも余裕たっぷりの寸法にし、すべての入り口にスロープを設けました。建物の外観は周辺住民のシンボルになりうるデザインを考えると同時に環境や建物にもたらす効果などを考え設計しました。緑地計画は建物との一体利用を考え大ホールから大型の曲面窓によってほぼ全ての緑地を見渡すことができるのでホールを利用しながら小さな子供を緑地で遊ばせてあげても安心です。緑地中央の屋根付き円形ベンチで子供を水遊びさせながら世間話などをして会話が盛り上がることを期待しています。遊具に子供も大人も楽しめ、ベンチとしても利用できるブランコを設置しました。誰もが躊躇せずに入れ、町のシンボルにできる集会場になることを期待しています。(一部抜粋)



奨励賞　長岡　修平
大阪工業技術専門学校　１年
心が寄り添う集会所

この集会所は多くの人に利用してもらうために、中の様子がわかるようにオープンな設計で人が通り抜けられるような動線計画になっているので、安心感があり気軽に立ち寄れる場所となっている。デザイン面においても個性的なところがありつつ、全体的には親しみやすいデザインとなっている。集会所がその役割を果たすことで、緑地もまたコミュニケーションの場として活用される。
計画地周辺はお年寄りの住民が多く見受けられた。しかし建て替えが進むことで若い住民も増え、この集会所は近所とのつながり、多世代のつながりを生む場所となるだろう。